

COLUMN 2 ゆとりある都市空間の形成

東京——優しい大都市？

デイビッド・シム ゲール・アーキテクトゥ パートナー&クリエイティブディレクター

「人間中心のまちづくり」を提唱し、都市デザイナーとして世界で活躍する。手がけたプロジェクトは、コペンハーゲンをはじめ、ニューヨーク、シドニー、メルボルンなど、いずれも街の表情を一変させました。

私は東京を訪れる度に、この世界最大の都市が、同時に世界で最も優しい街であることに魅了されます。東京の優しさは「ハードウェア」と「ソフトウェア」のバランスによるものです。あれほど大規模で、かつ、効率的な公共交通インフラは、世界最高のハードウェアです。でも私は、頻繁にやってくる電車がどれも時間に正確であること、乗客の礼儀正しさ、駅のトイレの清潔さなど、ソフトウェアにも目を向けたいのです。東京をこれほど魅力的な街にしているのは、そこに暮らす人々であり、コミュニティのにぎわいを維持できるヒューマンスケールがあるからでしょう。建物の間にある近隣の路地は元祖「共有スペース」であり、そののんびりとした空間は、車やバイクよりも、人間を優先してくれます。また、災害時には、自然にまとまって、互いに助け合う強さも備えています。

これからの東京は、少子高齢化の問題に直面します。孫の面倒を見ながら、定年後でも働き続ける活発な老人をどのように支援できるのか。年老いた人でもコミュニティとつながりを持ちながら、自立して生活するために、街は何ができるのか。その答えは、ヒューマンスケールにあります。歩道やベンチ、街路樹、自転車用レーンなど、人間の視点を考慮したデザインを大事にすることです。そうすれば、ヒューマンスケールとともにある優しい大都市・東京を世界に示すことができるでしょう。



1



2



3

①自転車中心のまちづくり/コペンハーゲン②歩行者中心のまちづくり/ニューヨーク タイムズスクエア③商店と住宅が共存するまち/東京都 神楽坂



スウェーデン・マルメ市